



夏休みチャレンジ教室



ジュニアリーダー研修会



第22回 北海道子ども会かるた大会

きずな

第68号

2019年3月発行

- ・ 利尻富士町学校支援地域本部事業
 - ・ 放課後子ども教室推進事業
 - ・ 夏休み・冬休みチャレンジ教室
 - ・ 利尻富士町P連研究大会
 - ・ 宗谷管内ジュニアリーダー研修会
 - ・ 第二十二回北海道子ども会かるた大会
 - ・ 第二十二回読書感想文コンクール
 - ・ 学校運営協議会
 - ・ 優秀作品
- 編集後記

【どさんこアウトメディアプロジェクト】
電子メディアへの接触時間を見直そう

毎月第1・第3日曜日は、
「ノーゲームデー」

第1・第3日曜日は大人も子どもも、ゲームをしないで、「家族団らん」を大切に「体験活動」や「読書活動」に親しむ「ノーゲームデー」に設定しています。

ノーゲームデーとは?

北海道子どもの生活習慣づくり実行委員会では、第1・第3日曜日は、大人も子どもも、ゲームをしないで、「家族団らん」を大切に「体験活動」や「読書活動」に親しむ「ノーゲームデー」に設定しています。



地域で取り組む青少年育成の輪

平成30年度 利尻富士町学校支援地域本部事業

学校の要請により毎年、子どもたちの健やかな成長のために、地域ボランティアの皆さんにご協力いただいています。



※事務局では、新たなボランティアを募集中です。
自分の特技や学んだことをぜひ生かしてみませんか？
たくさんの方のご連絡をお待ちしています。

★平成30年度の派遣内容★

【鷺泊小学校】

- ・1、2年生の朝読書時間への読み聞かせボランティア派遣（4～9月）
- ・新入生下校指導ボランティア派遣
- ・社会科授業指導（2回）
- ・スキー授業への補助者派遣
- ・総合学習授業指導

【鷺泊中学校】

- ・柔道授業への有段者派遣、バドミントン部活動指導
- ・バドミントン大会外部コーチ派遣
- ・卓球部活動指導
- ・スキー授業への補助者派遣

【鬼脇中学校】

- ・バドミントン部活動指導
- ・ダンス授業指導
- ・バドミントン大会外部コーチ派遣



遊び、まなび、ふれあえる場をみんなで

放課後子ども教室推進事業

放課後子ども教室は、放課後や週末、夏休み冬休みなどに、安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域のみなさんがコーディネーターや協働活動支援員となって、子どもたちに学習機会やスポーツ体験、交流活動などさまざまな機会を提供し運営されています。



平日放課後子ども教室

- 日 程／平成30年4月～平成31年3月（平日）
- 会 場／鷺泊小学校・鬼脇公民館
- 登 録／町内小学生 78名
- 運 営／地域コーディネーター2名、協働活動支援員5名

R・ふじっ子クラブ（週末活動）

- ◆1日ふじっ子教室
- ◆書道教室 11名【指導者：高柴幸穂、蛸島智里、米谷みつい】
- ◆水泳教室 62名【指導者：柴田 瞳】
- ◆鷺泊バドミントン教室 6名【指導者：熊谷洋人】
- ◆鬼脇バドミントン教室 9名【指導者：立脇竜也】
- ◆鬼脇かるた教室 8名【指導者：愛好会】
- ◆南浜獅子神楽子ども教室 13名【指導者：保存会】



夏休みチャレンジ教室

八月六日(月)～十日(金)
小中学生 八十二名参加

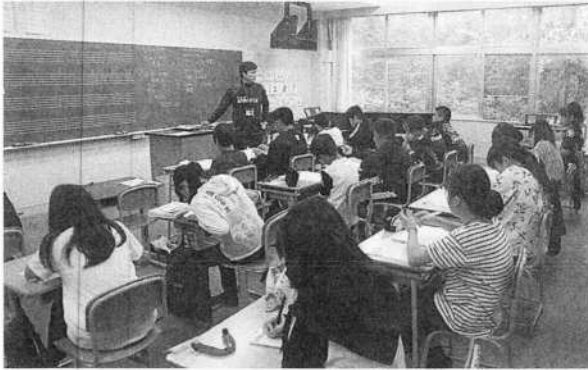
本事業は、子どもゆめ基金の助成を受け、北海道教育大学旭川校の協力を得て行われ、短期集中講座を実施することにより教員をめざす学生とのふれあい、自然とのふれあいを持ち、学ぶ意欲がある子どもたちに対し、学習機会や様々な体験を提供することをねらいとした事業です。

五日間の活動メニューは、学習支援として夏休みの課題取組、苦手教科克服や大学生考案のスポーツ体験やお楽しみみくです。

その他にも工作では、NPO法人利尻ふる里島づくりセンターへ講師を依頼して海藻おしばり作りや、宗谷総合振興局森林室による自然観察・体験を行いました。

四日目の夜は恒例のバーベキューやきもだめしをして、テントに寝泊りするキャンプ体験をするなどたくさん実施することができました。

今後も事業の継続に向け、大学や地域との連携をより一層充実するため、学生や地域ボランティアの確保に努めるなど、更なる事業の充実を図っていききたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



National Institution For Youth Education
独立行政法人 **国立青少年教育振興機構**
「子どもゆめ基金助成活動」

冬休みチャレンジ教室

一月八日(火)～十一日(金)
小学生 四十七名参加

本事業は、冬休み期間を利用し、様々な体験活動の機会を設け、他者と通じ合い創造していく力を育むをねらいとしています。

今回も、小中学校在学時に参加していたことのある高校生がボランティアとして五名の参加をしていただきました。

今回の工作は木戸勝也さん(木戸内装)にお越しいただき、メッセージボードと壁紙クロスを使ったダンボール箱作りをしました。

学習支援では冬休みの課題や苦手教科克服などの取組、スポーツ体験はポランテアクラブによる「スポーツ＆ゲーム」、リー先生による二種類の「フリスビーゲーム」と毎年恒例の「校内逃走中」に「ジャンボ雪合戦」を、最終日には全体レクでシippoとりゲームなどをしました。

また、新旧消防庁舎見学では、初めに現在の庁舎内を見学した後新庁舎を見学し、庁舎内を詳しく紹介していただき、とても貴重な機会になりました。

これからも子ども達にたくさんの地域住民との触れ合いを通じて体験活動などを企画していきたいと思っております。





利尻富士町PTA連合会・利礼地区PTA研究大会

10月6日(土) りぷらにおいて、約80人の参観者が集い、講師に株式会社長原配代表取締役の長原和宣氏を迎え「実体験でつかんだ迷路からの脱出」と題して講演会を行いました。

講師の筆舌に尽くしがたい波乱万丈の体験と、どん



底の状況で支えてくれた家族を含めた周囲の人々の愛情への感謝を赤裸々に語って頂きました。

その中で、どんな人間でも、自分の意志さえあれば、人生はやり直すことができ、大きな夢や希望を持つことができるという熱い思いが、虚飾のない言葉で聴衆の胸を打ちました。長原氏は全国各地の少年院などの施設に招かれ、過ちを犯してしまった青少年へ更生への希望を与え続けていらっしゃいます。



宗谷管内ジュニアリーダー研修会

2月2日・3日に稚内市少年自然の家で行なわれたジュニアリーダー研修会は、管内の小学5年生から中学生を対象とした研修・交流の機会として行われました。各地域で子ども会や町内会、生徒会などの活動で生かせるプログラムの企画や実践、協力しあう体験活動などを実施しました。

研修は、管内社会教育主事会が主体となり、道立の青少年体験活動施設であるネイパル北見の協力をいただきながら運営されました。

参加者23名のうち、本町からは、鷺泊中学校生徒会5名が参加しました。本町以外は全員小学生だったため、鷺中生のリーダーシップが大いに発揮され、自分たちの日頃の活動を紹介する場面もみられました。

この体験をぜひ地域の活動などに生かしてほしいと思います。



北海道子ども会かるた大会に出場

2月17日、定山溪ビューホテルにおいて、『第22回北海道子ども会かるた大会』が行われました。

宗谷地区の大会で中学校の部を準優勝し、代表として「鬼脇の疾風(はやて)」(小野寺百花さん(中3)、渡辺陽輝さん・熊谷宙大さん・小野寺海斗さん(中2)、熊谷爽汰さん(小6))が出場しました。

初戦は七飯町と対戦し、善戦しましたが、惜しくも敗退。

その後行われた敗者復活戦で小樽市と対決し、1勝しました。

勝った勢いのままにむかわ町との試合へと臨みましたが、惜敗しました。





第三十二回

読書感想文コンクール優秀作品

【小学校一学年の部】

「もったいないばあさん」をよんで

鷺泊小学校 おうみ みなと

わたしがこのほんにしたのは、おばあさんがきになったからです。おばあさんはいつも「もったいない。」といってやってきます。のこしたごはんをたべたり、くちのまわりについたものまでなめてきます。

くちのまわりをなめられるのは、ちよつときもちわるいです。

みずのだしっぱなしやなみだまでもつたいないといひます。

おばあさんはしかるだけでなく、おもちゃをつくったり、いろいろなくふうのやりかたもおしえてくれます。

このほんをよんで「もったいない。」ということが、まだよくわからないけど、やつたらだめなことなんだとおもいました。

わたしは、よくみずのだしっぱなしをしてしまいます。じゃぐちをきちんとしめていないことが、なんどもあります。おかあさんも

「もったいないでしょ。」といひます。

これからは、みずのだしっぱなしにきをつけようとおもひます。



【小学校二学年の部】

「バーバーパパのしまづくり」

利尻小学校 小 中 楓 太

ぼくは、島をどうやって作るかしりたいと思つたから、この本を読みました。

このお話は、バーバーパパたちがきいちごをとりに行った時に島をはつけんします。その島の木は、ちよつとの風でもたおれそうなので、かたむいてたおれそうなので、バーバーパパたちが島を新しく作るお話です。

【小学校三学年の部】

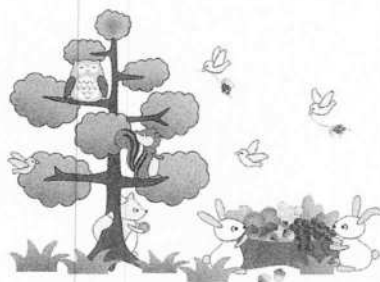
「いつも心の中に」

鷺泊小学校 工 藤 佳 音

わたしは、読書感想文の本をさがしに、大すきな本屋さんに出かけました。たく山の本の中から、この本を見つけ、読んでみたいなと思ひました。

この本は、主人公のみずきのお父さんがある日、とつぜん天国へ行つてしまひます。お母さんとお兄さんがまた明るいみずきにもどつてほしいとねがつて、お父さんのお姉さんがいるアメリカへ行き、色いろな体けんを通して元氣になつていくお話です。

この本を読んで思つたことは、どうぶつがすんでいる木をたすけることは、どうぶつのいのちをたすけたことになるということです。ぼくは、これからも森や林を大じにしてどうぶつのいのちをまもりたいので、どうぶつのすんでいるところを調べたり木を切つたりしないようにしていきたいです。



アメリカへ行つたみずきは、森の小学校でべん強をしたり、野さのしゅうかくをして毎日をすごしました。お父さんが死んでからさみしかつたみずきは、毎日なきました。お母さんがお父さんのようふくをまとめ、ダンボール箱に入れ、奥におしこむのを見た時には、みずきは、わあわあなきまます。わたしは一年生の時、大すきだったじいじがなくなりました。声をたくさん出してなきました。今でも、じいじのことが大すきなわたし、みずきは、よくにているなと思ひながら、読みました。



みずきは、ある日、お父さんのことを一度も思い出しませんでした。そういえば、このころかなしみのうずまきは、やってこなくなっていました。みずきは「お父さんのことをわすれてしまったの?」と思いました。それはちがいません。みずきは「わすれるはずがない。だってお父さんはわたしといっしょに、いつもここにいるのだから。お母さんが夏の間、アメリカのおばさんの家に、あずけてくれたのは、お父さんのことをわすれさせようとしたのではなく、いつのお父さんといっしょだよって思える様になってほしかったのかもしれない。」と夕やけをながめながら、思うのです。

わたしは、この本を読んで、わたしのそばにもきつとじいじがいてくれると思っています。

「じいじは、あの時、こうだったよね。」と、わたしや、わたしの家ぞくとたくさん話します。これからも天国でじいじが心ばいれない様に、わらって、すごしていきたいと思います。



【小学校四年生の部】

「世界を救うパンの缶詰」

鷺泊小学校 天 内 友 陽

この本は、あきらめない心が生み出した、「奇跡の缶詰」のお話です。なんの缶詰かというと、ふわふわなパンの缶詰です。このパンの缶詰は、じしんやこう水などでこまっている人のために、開発されました。それだけでなく、世界中のうえて苦しんでいる人の声も聞いたのが、パンの缶詰を作るときかけです。始めは、やき上がったパンをビニールぶくろに入れて、空気をぬいてみたら、パンがペチャンコになってしまいました。缶に入れてみると、パンはカビだらけになってしまいました。そのうちに、パン生地を缶に直接入れて、オーブンでそのままよく方法をみつけました。

その後も実験を百回以上つづけて完成しました。秋元さんは色々なかべにぶちあたってもあきらめなかったから、パンの缶詰が 탄생したのです。私は、何でもあきらめない秋元さんが、すごくカッコいいと思いました。

私はダンスを一番あきらめないでがんばっています。理由は、た

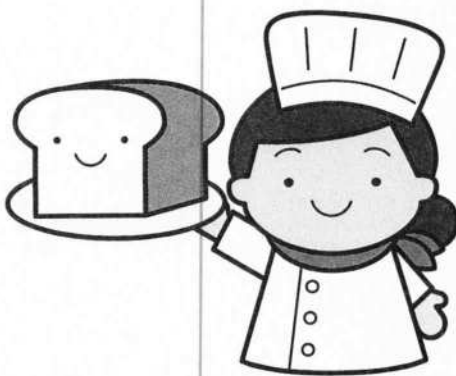
くさんの人の前で発表すると、みんながおうえんしてくれるからです。けれどかべにぶつかる時もあります。それは、ダンスのふりつけがうまくいかない時でした。私は秋元さんと同じように、うまくいかない時は、何回も練習して、やつとできるようになりました。

また、「世界にパンをとどける」球缶鳥プロジェクト」も心にのこりました。これはしようみきげんの近い缶詰を海外の困っている人とどけるプロジェクトです。このきつけは、しようみきげんぎれのパンを捨てずにすむ方法はないだろうかという考えからです。秋元さんのお父さんのけんじさんがえがいた「きがちいきの子どもたちを救いたい」というゆめは、むすこの秋元さんにより実げんされました。このプロジェクトもパンのかんづめと同じように、いくつもこんなをのりこえてじつげんしました。

この本をよんでわかったことは、自分のためじゃなくて、だれかのためにがんばるといことと、もう一つは、せいこうするには、失敗してもあきらめないで、その失敗から、新しいことを発見することです。

私も、秋元さんと同じように、

失敗してもせいこうするまであきらめないで、失敗から新しく学んでいきたいと思っています。





【小学校五学年の部】

「リンカーン〜アメリカを

変えた大統領〜」を読んで

鷺泊小学校 渡邊 拓斗

「リンカーン？」

どんなことをした人なんだろう。名前は知ってても、人物像までは知らないのとでもリンカーンについて知りたくまりました。名前は、エイブラハム・リンカーンといい、リンカーンの育った家は、とてもまずしくて、リンカーンは学校にいけませんでした。そのため、文字の読み方や書きや人が平等で、自由であることなどは、お母さんが全て教えてくれたのです。しかし、リンカーンのお母さんはこの頃はやっていたミルク病というものにかかり、死んでしまったのです。

ぼくは考えました。大切なものを失ったリンカーンの気持ち。ぼくは、学校にいかせてもらえて、家族もみんな元気に過ごしていません。何も不自由ではありません。その不自由のない生活から、もしも家族がいなくなってしまうたら……。とても悲しいです。

前にペットのハムスターが死んでしまった時、悲しくて何にもする気がいかなかったことを思い出

しました。でもリンカーンはぼくよりも、もつとつらい気持ちだったと思います。

その後もリンカーンにとつてつらい事は続きましたが、大人になったリンカーンは州議員になって、法律の勉強をして弁護士にもなったのです。お金はありませんでしたが、順調に議員生活をおくり、結こんすることもできました。

悲しみのどん底にいたリンカーンが自分の努力だけで成功したのです。とてもすばらしい事です。

一八六〇年、リンカーンはアメリカ第十六代大統領に立候補しました。一番知られていない候補者で、大統領になるのは無理だと思つたそうです。次期大統領がリンカーンに決まったのを読んだ時、ぼくはとり肌が立ちました。

「努力をすれば、夢がかなう」本当にすごい人です。

そして、奴隷い解放宣言をして「人民の、人民による、人民のための政治」というすばらしい言葉を残したのです。

リンカーンは、暗殺され五十六才で死んでしまいました。亡くなつてからも、人々は泣きながら祈りをささげるなど、リンカーンが国民から愛されていたことがよくわかりました。それは、リンカー

ンが国民を愛していたからだと思いましたが、努力する事の大切さ、人がみんな平等であることを学びました。

自分だったら、船長になるのが夢なので、そのために勉強をしたり人と協力したりして努力を続けていきたいと思えます。



【小学校六学年の部】

「幽霊ランナー」

鷺泊小学校 入井 大輝

「幽霊ランナー」ってどんなランナーなんだろう？

ぼくは、不思議な題名にひかれて、この本を読むことにしました。主人公の優は三年連続マラソン大会を棄権して、走る姿を見たことがないということから幽霊ランナーと言われてしまっています。

その原因は、一度目は転倒、二度

目は、おう吐、三度目はとうとうトイレに逃げてしまつて走ることができませんでした。ぼくも走ることが得意ではないのできけんしてしまふ気持ちは少なからずわかります。またこの本のマラソン大会はチームでのマラソンでもあるので、サッカーチームに入っている自分が足を引っぱつてせめられたらなんと答えたらいいんだろうと、自分と重ね合わせて考えてしまいました。正直、ぼくならもしかしたらここであきらめるかもしれません。けれど、優は中学生ランナーの指導を受け、グラウンドで正しい走りこみをしたり、毎日学校に走つて通つたりと、前向きにがんばるように変わつていきます。また優のあきらめずに同じことをくり返し、コツコツ続けて努力する姿を見て応援してくれる友達もできてきます。そのおかげで、マラソンというトラウマを克服していきます。

そんな、主人公のつみかさね、応援してくれる友達の気づかい、そして実は亡くなつていた中学生ランナーのおかげで、やつと一位のテープを切ることができたのです。

目標の努力も全て消えてしまふ。何度もあきらめかけてしまった心



をもちながら走り続ける優は本当にすごいと思いました。最後まであきらめない気持ちと、走る気持ちが強いから優の前に中学生ランナーが現れたかもしれせん。そして、走りたかったけど走れなかった自分の思いを優にたくしたかったのではないかと思いました。この本を読んで、残り少ない小学校生活、そして先色々な場面が出てくると思うけど、この主人公のように、くじけても何度でも立ちあがっていかうと思えます。また、優の友達のように、自分の友達がくじけそうになった時、手をさしのべられる人間になりたいです。



【中学校の部】

「物語のおわり」

鬼腸中学校三年 西澤輝人

この世界に、夢を叶えられた人は何人いるんだろう。いつの時代も、夢を持っていて人は多くいる。しかし、夢を仕方なく手放してしまう人も少なくない。

その人たちは、夢にどう区切りをつけるのか。

湊かなえさんが書いた『物語のおわり』を読んだ僕はそんなことを考えるようになった。

僕にとつて夢とは、数ある幸せへの答えの一つである。夢を追うことは、僕にとつても素晴らしいことだ。しかし、現実はそう甘くない。僕は今のところ将来の夢というのはないが、人を笑顔にすることは好きだ。しいて夢をあげるとするならば、エンターテイナー的なものだろう。

しかし、夢をもてたとしても、必ず叶うとは限らない。ともすれば、僕は将来どうやって夢に区切りをつけるのだろうか。

夢を手放さざるを得なくなる理由は幾多もあるだろう。たとえば、才能がなかったり、努力が実を結ばなかったりして生きるために夢をあきらめる者も多い。また、大

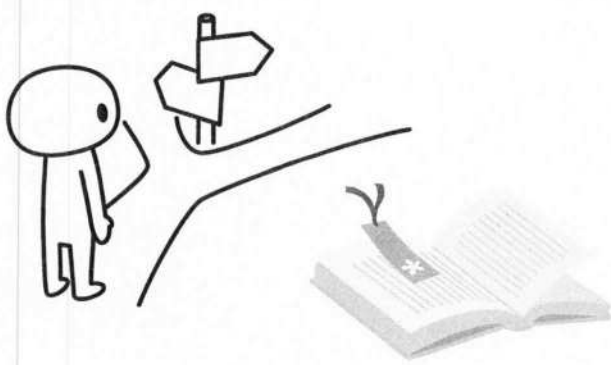
切な物を守るために夢を手放す者もいるかもしれない。金を選んで夢を手放すか、夢のために金を捨てるかなど、選択をしなければならなかった者も少なくないかもしれない。『物語のおわり』という本は、夢に関する悩みを持つ者について描いた物語だ。

『物語のおわり』は「空の彼方」という未完の小説を中心に、それぞれ悩みを抱えた五人が悩み向きあつていくお話だ。五人の悩みにそれぞれで、先程言っていたように苛酷な選択をしなければいけない者、夢をあきらめざるを得ない者もいたりする。「空の彼方」は外に憧れを持った少女が小説家という夢か、彼氏と結婚するかで迷い、結局小説家を目指して夜中に駅へ行くも、そこには彼氏がいる：という場面で終わっている。

小説「空の彼方」を読んだ五人の登場人物は、その物語の続きを想像する。五人が出した結論はそれぞれ全く違うものであった。結末は人それぞれ違う。つまり、夢への区切り方は人それぞれで、一つではないことを示しているように思えた。人生で後悔しようと思えば、これから先のことに前向きに取り組むことができるのではない

だろうか。僕には「空の彼方」という小説が人を変えさせる力があるとは思えない。ただ、この小説の状況を客観的に見る事で、自分にとつて何が一番か見えてくるのではないだろうか。夢に区切りをつけるにしても、自分が納得できるなら、多少後悔しても、少なくとも何かを得られるはずだと僕は思う。

僕がこの先夢に区切りをつけても、きつとまたやりたい事をやり始めるであろう。できないにしても、その選択が正しくなくとも、僕は自信をもって選んだ道を歩きたい。





「あなたの夢はなんですか？
私の夢は大人になるまで
生きることです。」を読んで

鷺沼中学校二年 高橋 優羽

この本はアジアの貧困地域に暮らす人々の生活そのものが描かれている実話の一冊です。この著者はアジアを中心に貧困に苦しむ子供達の支援をしている偉大な人物です。

この本は色々な子供達が出てきました。中でも私の印象的だった子供は、ゴミを拾いながら生活している四歳の女の子のお話でした。女の子は毎日、ゴミ捨て場に訪れ、ゴミをお金にかえています。母と二人暮らしですが、母親がいくら働いても人間一人が食べる分さえも稼ぐことができないそうです。なので、この少女が生きようと思ったら、自分で働くしかないのです。本には実際の写真が記載されています。子供達には靴が買えないため、裸足の生活をしています。そのため、裸足でゴミの中に入っていくのでガラスや鉄くずで足を切ってしまう、そこから菌が入り、感染症などの病気で死んでしまうのです。この少女も同様、亡くなってしまいました。

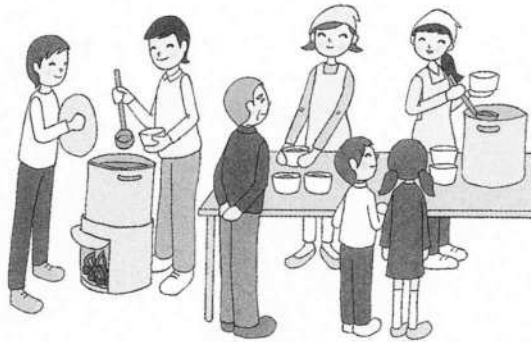
一方、私達の生活はどうでしょう。

う。物があふれ、食べ物も粗末に扱い、ありがたみを知らず生きていく子供達も多いのではないのでしょうか。私の近くでもそうといった話をよく聞きます。おいしくないから捨てる、物を壊すなどと、沢山いいます。私も物を沢山もっていますが、この暮らしが当たり前になっっていました。もう一方には、一度もお腹いっぱい食べたことがなく、いつも死と隣り合わせで生きていくことをこの本に出会って知ることができました。歴史や文化の違いもありますが、私達の暮らしが豊かであることが窺えます。そんな中、懸命に生きることが、どんなに苦しくても笑顔で生きている貧困国の子供に尊敬の気持ちと、素直でたくましく、とても格好いいと思いました。

この本に出会って、いかに私達が贅沢な暮らしをしているのが、よく分かりました。ポロポロになりながらも懸命に生きている子供達を私は心から尊敬しました。同時に自分も同じように、命を大切に生きていこうと思います。

私は将来、支援活動のようなボランティアに参加できたらなと思っています。今はまだ可能ではないとおもいますが、自分自身が真剣に、懸命に生きることが

貧困国の人々を通し世界中へ最高のボランティアになると、この本を読み、気づかされました。これから、その心を忘れず生きていきたいと思っています。
私はこの本を沢山の子供に読んでもらいたいです。私と同様に、生きていることの大切さを改めて気づくことができます。ぜひ、この本を読んでみてください。





～地域とともにある学校づくりをめざして～
学校運営協議会
コミュニティ・スクール
の取り組み



平成30年度より、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）という新たな取り組みが始まりました。地域の住民が学校の運営にこれまで以上にかかわり理解していくことで、学校や子どもたちを応援するものです。協議会は、篤泊地区と鬼脇地区それぞれに設置し、メンバーは学校長・教頭、PTA、自治会長、地域住民、社会教育委員、教育委員会10数名で構成され、年3回集まり学校運営の方針や活動、子どもたちにかかわるさまざまな問題（学力や通学路の安全確保、携行品など）に対し意見、協議をする場となっています。本町には以前より、学校支援地域本部という制度があり、学校の要望に応じて地域で技能をもった方々やボランティアを派遣する取組があります（2ページ参照）。そうした取組のより一層の充実を図るためにも、学校の実情や課題などの話し合いの場をもつことで、お互いの情報交換や共有をすることができます。すべては子どもたちにとって大きなメリットを生んでいくことが最大の目的であり、今後も学校と地域をつなぐ場として取り組んでいきます。



通学路の合同点検の様子

利尻富士町通学路防犯・交通安全プログラムはこちらからご覧ください。→



編集後記

今年度も、町内小中学生の生き生きとした活動を掲載した「広報きずな第六十八号」を発行することができました。編集に携わった各委員の皆様はじめ関係各位にお礼申し上げます。まもなく元号が変わり、日本は新しい時代を迎えます。子どもたちが生きる新たな時代は、どのような世の中になるのでしょうか。小学校は一年後、中学校は二年後に新しい学習指導要領が全面実施となり、予測困難な時代にあっても未来の創り手となる確かな資質・能力を子どもたちに育んでいくことが求められます。この広報に掲載された読書感想文や子どもたちの姿に見られるような、自分の頭で考え、意欲的に行動する、そんなたくましさや育てていくことが重要になってきます。また、この広報には、地域でがんばる子どもたちの姿や、社会で育つ子どもたちの姿もたくさん載せられています。新指導要領の理念は「社会に開かれた教育課程」。本町でも「学校運営協議会」が発足し、今後ますます、家庭・地域・学校が力を合わせて子育てを進めていくことが大切になってきます。この広報が、子どもたちのがんばりを確かめあい、子どもたちの成長を願うすべての方々の力合わせの一助になることを願っています。

広報委員会委員長
 関谷克志